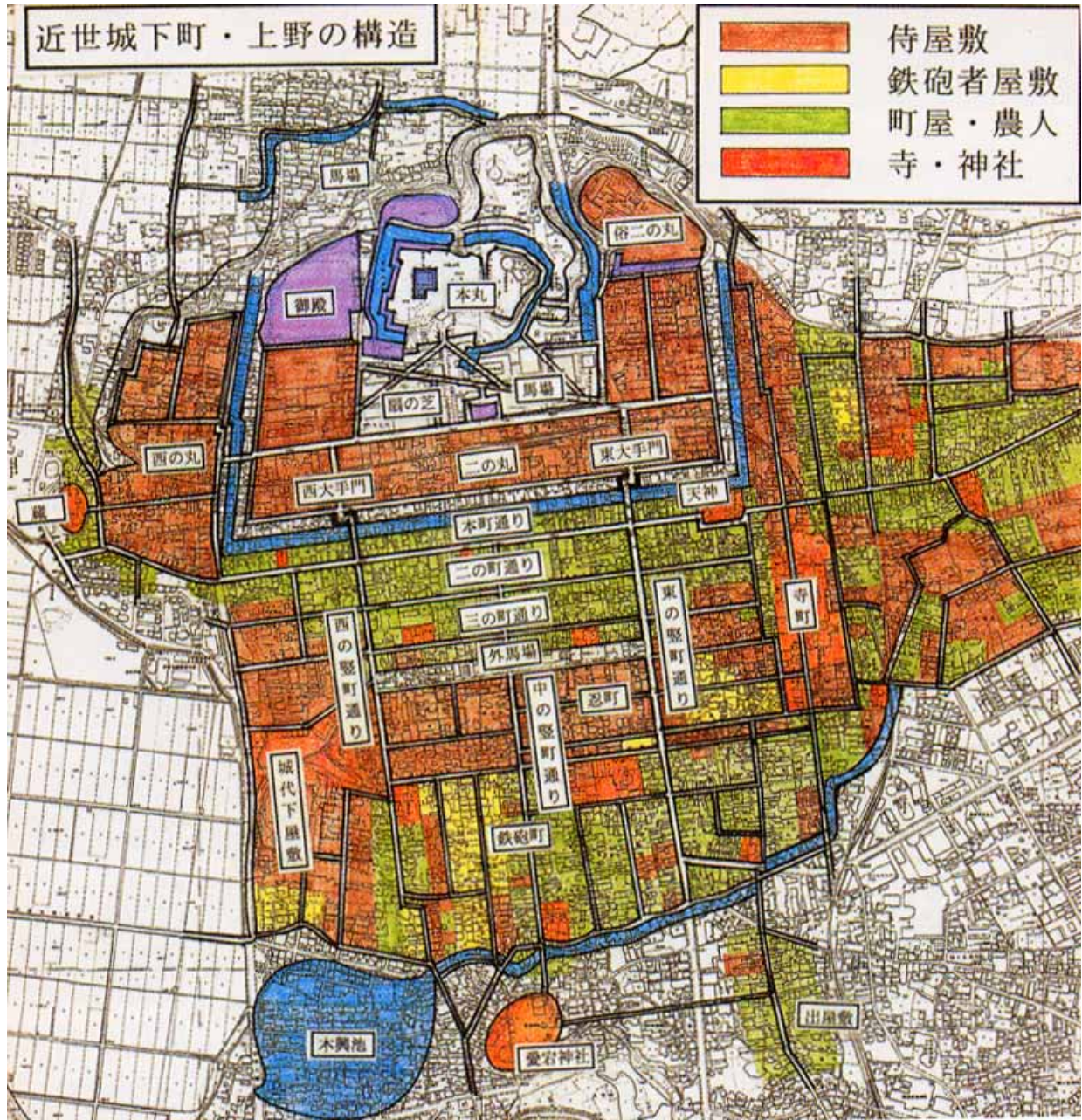


景観拠点のネットワークで、城下町まるごと博物館に～三重県上野市～

俳聖松尾芭蕉の生誕地、伊賀流忍術発祥の地としても知られる城下町上野市。市民団体を巻き込みながら、市街地内に点在する景観拠点をゆとりある歩行者空間でつなぐ「ウォーキング・トレイル事業」の実施を契機として、美しい景観、歩行空間が生まれ、徐々にではあるが中心市街地に人の賑わいを取り戻しています。



上野市の中心部（旧城下町地区）

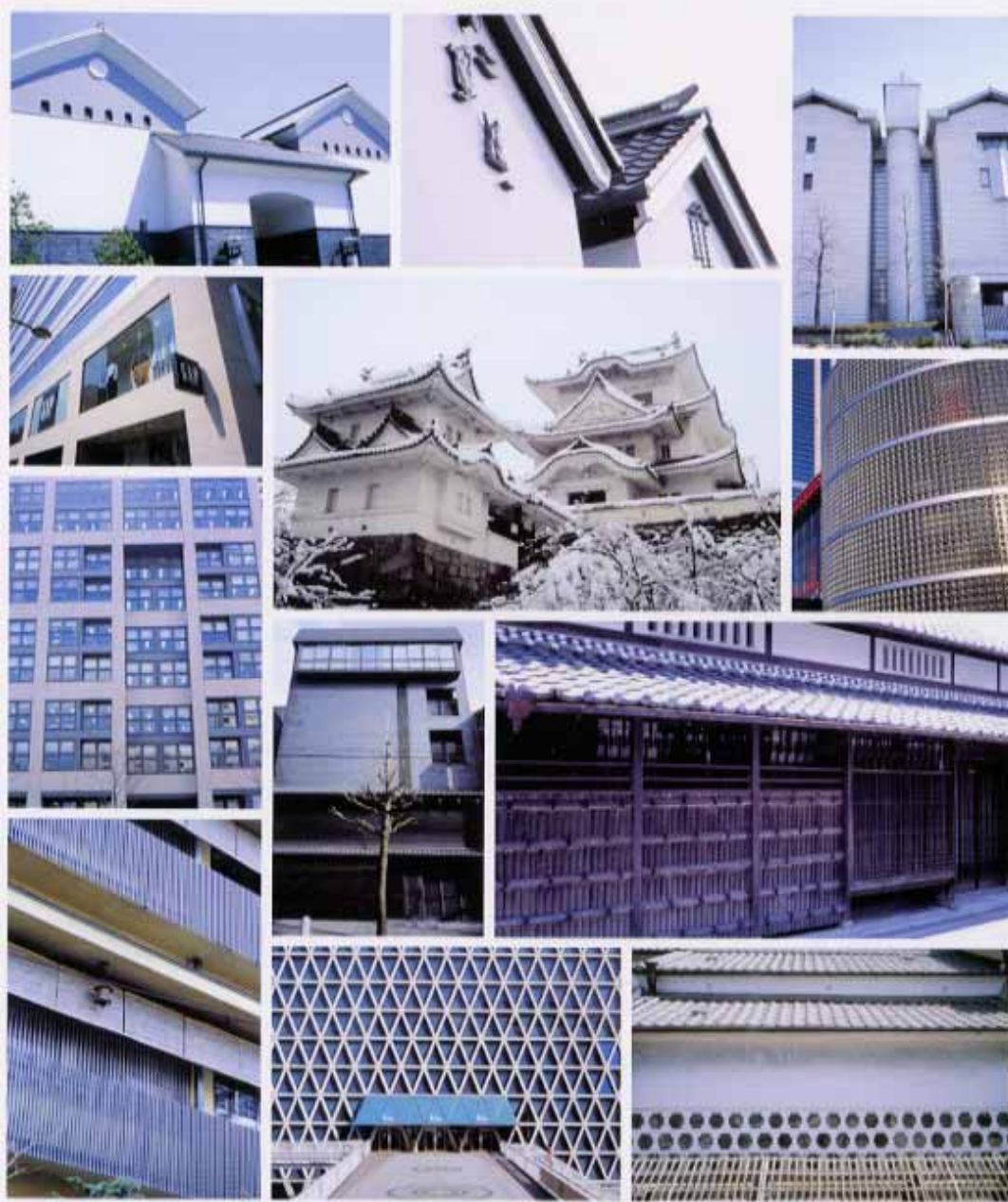
出典：上野市将来都市整備構想策定調査報告書

【通過型の「立ち寄り観光地」からの脱却を目指して】

上野市の市街地は戦災を受けていないため、上野城を中心に武家屋敷や商人町、寺町などの配置や、防衛を配慮した道のづくりなど、城下町時代の面影を今も色濃くとどめています。また、伊賀流忍術発祥の地、俳聖松尾芭蕉の生誕地としても有名で、歴史的文化的な史跡や建造物が市内のあちこちに点在していることが大きな特徴になっています。

しかし、関西方面から伊勢方面へ、あるいは中京方面から関西方面への観光の休憩地として、いわゆる「立ち寄り観光」が主流で滞在時間が短いことが課題でした。また、平成4～5年頃、大型商業店舗の郊外進出の動きとともに、市の中心部の商業者を中心に危機感が生まれ、街なかに点在する歴史的文化的資源の有効活用と歴史的景観を生かした新たな都市づくりへの取り組みが進められるようになりました。

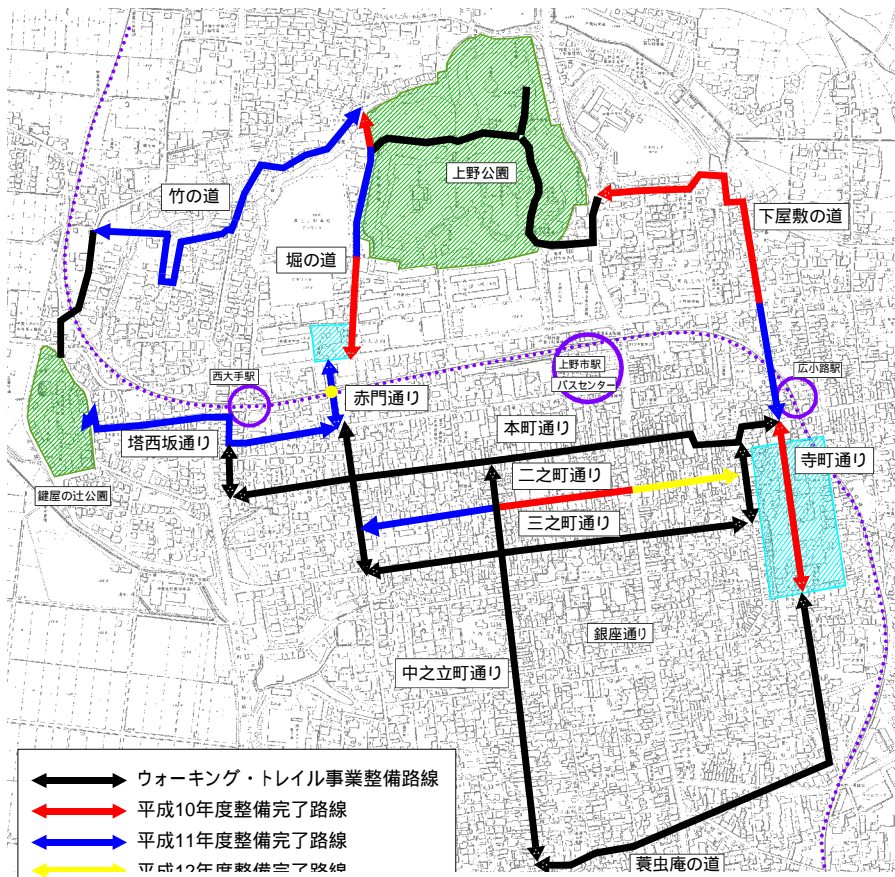
親しみと誇りのもてる魅力あるまちづくりへ



上野市の都市景観（出典：上野市ふるさと景観条例パンフレット）

【上野市ウォーキング・トレイル事業による散策ルート整備】

市内各所に点在する文化的遺産や観光施設等、豊富な地域の宝物をつないで有機的に活用し、町歩きが楽しめるまちづくりを進めるため、また、安全で快適な歩行環境を整備するため、上野市では、市民ワークショップを開催しながら景観に配慮した地道風アスファルトや側溝改良、和風街路灯や防護策の整備、石材ベンチの設置等を実施しました。計画段階を含め平成9年度から12年度までの4ヶ年で7区間（総延長3.43km）の整備が完了しています。



デザインワークショップ（出典：上野市ウォーキング・トレイル事業パンフレット）

散策ルートと整備完了年次（資料提供：上野市土木部道路河川課）



整備前の寺町通り



寺町通り



整備前の堀の道



堀の道



整備前の赤門通り



赤門通り

【景観条例によるまちづくりと多彩な市民団体を育む「まち衆文化」】

市民一人ひとりが親しみ、誇りを感じる魅力あるまちづくりを、市民、事業者ならびに市（行政）の三者が一体となって進めるため、平成 13 年に「上野市ふるさと景観条例」を施行し、城下町としての都市景観の形成を展開しています。

一方、上野市には、城下町の旦那衆が取り仕切る形で毎年秋に開催される上野天神秋祭によって培われた「町人氣質」、「まち衆文化」があり、まちづくり活動に熱心でTMOだけでなく、「ウィリアム・テルズ・アップルまちづくりセンター」といったユニークな団体も設立されています。また、ワークショップなどへの参加にも積極的です。そして、行政は、様々な事業や制度の創設などを通じて、こうした市民レベルの活動を有機的に結びつける役割を果たしています。

親しみと誇りのもてる魅力あるまちづくりへ

建築物等の都市景観形成デザインマニュアル



上野市

